

落ち葉の活用法を学ぶ

南幼稚園 年長・年中児が腐葉土づくり



かごいっぱい落ち葉を混ぜる園児たち



発酵や分解を促すぼかしを投入

富士市横割の市立南幼稚園(内田新吾園長)で17日、SDGs(持続可能な開発目標)推進の一環として、園内の落ち葉を活用した腐葉土づくりが行われた。市内でぼかしや腐葉土づくりに取り組む清水順子さんが講師を務め、年長・年中児22人に落ち葉を肥料として再利用する方法を伝えた。

ぼかしを使った腐葉土づくりでは、もみ殻や米ぬかに、糖蜜、有機物を分解するEM菌を加えたぼかしと落ち葉を混ぜ合わせて原料とし、直射日光を避けつつも、日当たりの良い場所などで温度を上げるのが大切となる。今回は原料を黒いビニール袋に入れて密閉し、温度が上がることによって発酵と有機物の分解が進み、栄養が多く含まれた腐葉土になるといふ。



黒いビニール袋へ落ち葉を入れた

園児たちは、落ち葉とぼかしを混ぜ合わせる作業を体験。かごいっぱいに入れられた落ち葉に清水さんが用意したぼかしが入れると、全体がしっかりと混ざるように一生懸命にかき混ぜ、ビニール袋に詰め込んだ。完成した腐葉土は、

上手な腐葉土づくりを伝える清水さん



園児たちが今後取り組む冬野菜の栽培で活用するほか、園内の花壇にも使用する予定。清水さんは「腐葉土を畑や花壇に混ぜることで、植物がどのくらい元気に育っていくかを見てほしい」と呼び掛けた。梅原恭弥さんは「葉っぱを混ぜるのが大変

職員の手本を見る園児たち



だったけど、楽しかった。植物の栄養になることを初めて聞いて驚いた」と感想を語り、野菜の成長を期待した。市内の公立幼稚園では、富士市が7月に政庁によるSDGs未来都市に選定されたことを受け、各園の特色を生かしながらSDGsに関する取り組みを進めている。同園では桜の木が多く毎年大量の落ち葉が出るため、腐葉土づくりを計画した。内田園長は「体験を通じてSDGsの考え方を感してもらい、身の回りの物を大切にすの心、有効活用する心を育みたい」と話した。

SDGsの考え方を体感